

障連協にゅーす

第 34 号

発行日 2015年1月25日
 編集 NPO法人
 旭川障害者連絡協議会
 発行者 高津 修
 住所 旭川市宮前1条3丁目3番7号
 旭川市障害者福祉センター
 「おびった」3F
 電話 0166-31-2226

■障連協にゅーす 34号目次

1 年頭の挨拶・障害者週間

2 高等支援学校への想い

2月・3月スポーツご案内・編集後記

年頭の挨拶



新春を迎え、皆様におかれましても新たな気持ちを持って迎えられたことでしょう。

当会の事業計画に対しまして、各団体の皆様にはご理解とご協力をいただき、誠に有り難うございます。

昨年は海外では、隣国の韓国海上での旅客船セウォル号の沈没事故で死者・行方不明者計304人と痛ましい事故等は記憶に新しいと思います。国内では火山の爆発による多くの登山者による犠牲者や豪雨による土砂崩れによる犠牲者があり、身近に突如発生の自然災害時等には、私たちも常に緊急避難場所等を心掛けている事が大事であると思います。又、パソコン・スマホ等による詐欺事件や衝動殺人、幼児虐待や障害者虐待事件も多く発生しています。さらに夏にはスマホ見ながら歩行して自転車との事故やスマホ見ながら車の運転による事故があり、私たちの周りには危険な事が多くなってきているご時世です。

私たち障害者は弱者であり、日常生活では交通事故や歩行時の転倒事故等に合わないように急がず、慌てずに行動する事を心がけましょう。

一日一日大切に生きていくことを希望いたします。

ろうあ者の「手話言語条令法」や「障害者差別禁止法」等は早急に成立を願いたいと思います。

高齢化社会を迎えて、認知症患者が多くなってきています。認知症患者の実情と患者の心情に即した対応について知ってもらうため、「認知症サポーター要請講座」で厚生労働省は「驚かせない」・「急がせない」「自尊心を傷つかせない」の基本姿勢を訴えています。

障害者に於いては、安心・安全に生活が出来る街になる事を希望と期待をして行こうではありませんか。今年も皆様におかれましてもご健康とご多幸をお祈り致しまして年頭の挨拶と致します。

旭川障害者連絡協議会 理事長 高津 修



旭川市障害者週間記念事業

当日は天候にも恵まれ平成26年度旭川市障害者週間記念事業が12月7日におびった2階体育館で開催されました。オープニングは旭川大学・旭川大学短期大学部 手話サークル「ド・レペ」の皆さんによるハンドベル演奏、手話歌が始まりました。北海道新聞、ポテトの取材がありました。次に実行委員長の工藤フサより開会宣言が行なわれ、旭川市長 西川将人より主催者挨拶がありました。理事長 高津 修の挨拶のあと、来賓として旭川市議会議長 三井幸雄様、旭川市社会福祉協議会副会長 大沼克己様よりご挨拶頂きました。旭川地区民謡連合会・皆さんの民謡、太鼓、菅野孝山会の津軽三味線による唄、演奏で会場全体を盛り上がった雰囲気にして頂きました。お昼休憩には、旭川市のゆるキャラ「あさっぴー」の紹介がありました。午後からは息のあった見事な旭川市消防音楽隊による吹奏楽演奏から再開しました。

この後、北海道警察旭川方面本部 生活安全課 課長補佐 伊藤政弘様による記念講演 テーマ「特殊詐欺被害にあわないために」について力説され、一般社団法人旭川消費者協会 劇団「風」の皆さんによる「身内になりすますふり込め詐欺」の寸劇を熱演されていました。旭川千翔太鼓が迫力のある和太鼓演奏、PL北海道第二MBAの子供達によるかわいい演技、華麗な演技のバトン技を披露、続いて難病患者団体のグループKKKB48の演舞（YouTubeでも閲覧可能）、屯田笑福会ひよっこ踊りによるユニークなひよっこ演舞で締めくくりました。

最後に副実行委員長 麻生道弘が閉会宣言をして終了しました。



「高等支援学校への想い」

昨年10月14日おびったに於いて平成28年に開校が決まった高等支援学校へ入学が可能な子ども達の保護者約90名が集まり、意見集会を開催。高等支援学校の新しいあり方を考えながら、学校の設備補修や周辺地域への理解と協力、また通学に際してのバス路線や周辺の環境整備等はもちろんのこと、就労先の確保など、

《地域で働き自立を目指すため、今のニーズに合った学科の設定》

《ひとりひとりがスキルアップできるカリキュラムの充実》

《地域に開かれた学校づくり》

について、それぞれが持つ「新しい高等支援学校への期待」や「我が子の将来に向けた希望」など、子ども達がのびのびと学ぶ場所になるようにとたくさん意見が出され、新しくできる学校への期待や関心の高さを感じる集会となりました。

後日これらの意見を集約し、12月10日に開催された北海道教育委員会主催による「第3回道北圏高等支援学校の設置準備等に関する検討チーム会議」に参考資料として提出。参加の関係機関・団体の代表の方々に多くの保護者が期待し、待ち望んでいることをお伝えいたしました。

会議では特に就労に向けた支援を市・市教委・関係機関・団体がどのように取り組み、組織化していくか等の前向きな意見が多く、学校運営を官民挙げてバックアップする体制創りが必要である

認識を共有するものとなりました。

また同日、北海道教育委員会立川教育長に対し「要望書」として提出。今後具体的に示される間口やカリキュラムに於いて深く考慮いただきたい旨を申し添え、直接お渡しいたしました。

また、12月16日西川旭川市長を表敬訪問。北海道教育委員会に提出した内容に加え、特に就労に関して市としての取り組みに期待する内容を盛り込んだ「旭川市への要望」を提出。市が先頭に立ち、雇用（実習）の場の確保、並びに雇用の促進に努めてもらいたいことを強調してお伝えしました。

西川市長からは市役所内の各部局が連携し、卒業後旭川市での就労を希望する子供たちすべてに対し就労を支援する体制創りの重要性、また離職率が高いことも問題であるとの意見から、就労後の支援体制もまた強化しなくてはならない課題との見解も出され、官民一体のオール旭川の舵取り役としてこれからも進めていくとの言葉を戴いて参りました。さらに小池教育長より、今後も「ささえる会」として学校運営や就労などの体制創りにも関わってほしい旨を所望されました。

現在、旭川市に高等養護学校つくる会幹事にて構成4団体（旭川手をつなぐ育成会・旭川自閉症児者親の会・ドンマイの会旭川支部・旭川ピリモの会）の総会時にこれまでの活動報告と今後の経緯説明が出来るよう検討しているところです。

今後とも、開校まで、また開校してからも皆さんとともに新しい学校を支えてまいりたいと思いますので、何卒よろしくお願ひいたします。

旭川市に高等養護学校をつくる会
会長 利根川 嘉子

2月・3月 スポーツ教室ご案内

2/8(日)フロアーホッケー

3/8(日)ゴロ卓球バレー・スカットボール

編集 後記

新年あけましておめでとうございます。昨年は色々暗いニュースの中、ノーベル物理学賞を日本の3名の方々が受賞されると聞き、ホッと胸のすく思いをしました。気ぜわしい暮れに衆議院議員の選挙があり当選者は「我が世の春」を迎えられたことでしょう。

私達障害者に厚い手がさしのべられるのでしょうか。弱い者はいつも後回しにされるのが常ですが…しかし、私達障害者は誰が当選しようが弱者の住み良い政治をと一歩一歩辛抱強く頑張りましよう。今年は皆様方お一人お一人に良い年でありましよう。(K.K)